

＜梅雨空に＞アジサイの花の藍色が目に染みます。ただ赤い花や緑の葉もあってこそ藍が映えるのでしょうか。“あじさい”と“アジサイ”、平仮名の方が優しくて似合いそうです。ところで漢字の“紫陽花”はもともと別の花の名だったのが平安の昔に間違えられたとのこと。でも趣があつて間違いのままで良いと思いませんか。花の色がさまざまに変化することから“八仙花”とも言いますがやはり“紫陽花”！ 写真のアジサイはホンアジサイです。花の周りにだけ装飾花のあるヤマアジサイやガクアジサイも趣がありますね。



＜梅雨の晴れ間に＞久しぶりに富士が姿を見せました。随分と雪が少なくなりましたが雑木林の緑とあいまって初夏を感じさせます。「目に青葉 山ほととぎす 初鯉」、キャンパスではホトトギスの鳴き声も聞こえます。あとは食欲をどう満たしたのか…。一方、ノアザミの青紫が背の低い野原で目に付きます。花にはヒメシジミもやってきています。卵を産んでいるのでしょうか。またちょっと時期が外れ気味ですがノビルの花も見られます。ノビルの根っこ（鱗茎）は小さな玉ねぎのようで軽く茹でて酢味噌で食すると美味とのこと。少し調べてみ



＜ノアザミ＞

ましたが、玉ねぎより昔に日本にやってきたようで古事記や万葉集にも登場します。(ノビル：野蒜) 天皇も野草を摘みに野に出かけられたのでしょね。“いざこども野蒜摘みに蒜摘みに”(古事記、応仁天皇) ビオトープではウツギの華やかな白が終わろうとしていますが目立たず何食わぬ顔でナツハゼが花を咲かせていました。5mm ほどの赤い釣鐘型の可愛らしい花です。



＜上：ノビル＞ <下：ナツハゼ＞



＜飛翔＞蝶の飛ぶ姿は“ひらひらと舞う”というイメージですがその一瞬の姿はダイナミックでさえあります。ナミアゲハ(左写真)のような大きな蝶だからでしょうか。シジミチョウでは花びらがそよ風に舞うような感じですね。そう言えば今あちこちでミズイロオナガシジミが見られます。ちょっと見にはどちらが頭か尻尾か分かりません。天敵への“目くらまし” ←＜ミズイロオナガシジミ＞ でしょうか。 (文と写真：松本正勝)

